



11月14日

## 仲良く掘ってサツマイモを収穫

明智町ふれあい農園で、明智小学校と県立恵那特別支援学校の1年生31人が、サツマイモ収穫体験を行いました。

小学生の食育の一環として、土に触れ、収穫する喜びを体験してもらうために、市観光協会明智支部が毎年実施しているものです。

児童は「大きい芋がいっぱいあるよ」とか「芋を掘るのを誰か手伝って」などと歓声を上げながら、収穫を楽しみました。収穫体験をした藤岡あさひさんは「みんなで芋掘りをするのは楽しいです。掘った芋は家で焼き芋にして食べたいです」とうれしそうに話しました。



11月4日

## 感謝の気持ちでおかげまつり

岩村本通り周辺で「2018 いわむら城下おかげまつり」が開催されました。

今年は連続テレビ小説「半分、青い。」で岩村町が盛り上がったことを感謝し『ありがとう「半分、青い。」』というテーマで開催。一帯には雑貨や飲食などの出店が並び、来場者の目と舌を楽しませました。

この日はドラマにちなんだ「ふくろうまつり」も同時開催。ドラマの町並みや昭和の雰囲気再現されました。ドラマに登場した「岐阜犬」のぬいぐるみも登場し、写真を撮影したり話し掛けたりする人でにぎわいました。約1万7,000人が訪れ、町並みは感謝と笑顔であふれました。



10月28日

## 熱演に拍手喝采の東野歌舞伎公演

東野小学校体育館で東野歌舞伎公演が行われ、地元住民や歌舞伎ファンら約400人が来場しました。

東野小学校歌舞伎クラブによる「青砥稿花紅彩画 稲瀬川勢揃いの場」では、4年生から6年生児童9人と教員1人が出演。児童演じる5人の盗賊が一人ずつ名乗りを上げ、見えを切る場面では、観客から大きな拍手が湧き、たくさんのおひねりが投げ込まれました。

日本駄右衛門を演じた6年生の千藤月南さんは「緊張したけど楽しくできました。花道から登場する時は頑張ろうという気持ちで挑んだ」と笑顔で振り返りました。



10月27日

## 足元から考える地球の環境

市民会館とその周辺で「えな環境フェア2018」が開催されました。12回目となる今回は、身近な足元の環境を知ることから始めて、持続可能なまちづくりや青い地球の環境を考えようと、『「あつ、おーい！」～足もとの青から青い地球へ～』がテーマ。市内外から30以上の企業や団体が参加しました。

会場では多くの体験コーナーが並びました。電化製品を解体して資源を発見するコーナーや間伐材を使って箸を作る体験、古紙を使った紙すき体験など、来場者は普段ではなかなかできない体験を通して、楽しみながら環境について学びました。



11月18日

## 籠いっぱいユズに大勢の人

笠置町の毛呂窪体育館周辺で「笠置ふるさとゆず祭り」が行われました。笠置町の特産品ユズの出産期に合わせて、ユズなどの特産品販売の他、笠置コミュニティセンター利用団体や地元児童生徒などの作品展示、各種体験コーナーなどでにぎわうこの祭り。9回目となる今回から規模拡大のため、これまでの笠置コミュニティセンターから会場を移して開催されました。

生ユズの販売コーナーには籠いっぱいにユズが積み重ねられ、大勢が買い求めました。東雲大橋ウォーキングやボルダリング体験、ユズ餅投げなどもあり、地域の魅力いっぱいの祭りを約2,500人が楽しみました。



11月11日

## たすきと心をつないで認知症理解へ

認知症の方や支援者らがたすきをつないで、市内各地からゴールを目指すランニングイベント「えなRUN伴+ (PLUS) 2018」が行われました。認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指して、さまざまな立場の人が出会い考える場として開催しているもので今回が5回目。53チーム128人のランナーが、市内5地区からゴールを目指しました。

ゴール地点となった市役所前には、そろいの黄色いTシャツを着たランナーが次々と到着。手をつないだり、ハイタッチしたりして、達成感あふれる笑顔でゴールを迎えました。



11月3日

## 自慢の巣を競うくしはらへボまつり

くしはら温泉ささゆりの湯グラウンドゴルフ場で「くしはらへボまつり」が開催され、へボ愛好家や観光客ら約1,500人でにぎわいました。

見どころは自分で育てた巣の重量を競い合う「全国へボの巣コンテスト」。愛好家らが丹念に育てた自慢の巣が102点出品されました。巣箱から取り出された巣は重さが量られると、次々とテーブルに並べられていきました。巣の出来栄を見ようと、大勢が周りを囲みました。

最重量を記録し優勝に輝いたのは、中津川市付知町の早川貴典さん。幾重にも層を成す見事な巣は6,940gを記録しました。



10月27日

## 早期開通を願い中心杭打ち式を開催

武並小学校で国道19号瑞浪恵那道路恵那工区を中心杭打ち式が行われました。

瑞浪恵那道路は瑞浪市と恵那市を結ぶ延長12.5kmの区間で、今年4月に武並町から長島町の恵那工区4.3kmが事業化。式典は同工区の測量開始に伴い、多治見砂防国道事務所と瑞浪市、恵那市が主催し、国や県、両市の行政関係者、地元住民ら約150人が出席しました。

関係者は武並小学校児童とともに、掛け声に合わせて木づちでくいを打ちました。

瑞浪恵那道路は、渋滞や事故などの解消、地域の経済産業を支援する道路として、早期開通が期待されています。